

【第 28-22 号】

本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ最新情報をお知らせする目的で配信しております。メール配信を希望されない方は、「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。

コラム

いつもお世話になっております。産学連携コーディネータの最上です。

朝はまだまだ寒いですが、立春を過ぎた頃から日の長さ・日差しの強さを感じますね。これからはスギ花粉の飛散が多くなりますからマスクの着用はしばらく続きそうです。

2月17日(金)に第15回アカデミックサロンを開催し、工学域機械工学系(情報メカトロニクス工学)の小谷信司先生に「生きる力と喜びをもたらす生活支援ロボット、農業支援ロボット」と題して講演を戴きました。

日本の総人口は2055年には9000万人まで減りしかも6割が65歳以上という年齢構成になると予想されています。この様な社会では、障害者や要介護者の生活を支援するロボットが欠かせないものになると考えられています。ロボットに求められるものは「人の代りに何かを行う」ことと考えがちですが、そうではなく「人と協調し、生きる力や喜びをもたらす」ことなのだということが分りましたね。「ロボットは人へのアシスト」です。

小谷先生から介護・福祉ロボットの開発事例(失敗もありましたね)の話を聴き、「困っている人を助けてあげたい」という熱い気持ちを皆さんも感じたのではないのでしょうか。私も感動しました。

また、現在研究されている「モモシンクイガ被害果検出システム」においては、台湾の検疫状況や日本果実の輸出振興政策の背景の下、農水省から大きな期待(圧力?)を受けて頑張っていることがよく分かりました。

必ずや、大きな成果を収められると確信しております。

今年度のアカデミックサロンはこれが最後となります。

今回も新しい参加者があり満席で盛況でした。有難うございます。

今後の交流イベントとして「2016年度第二回クラブ交流会」を3/8(水)に開催致します。既に案内メールを差上げておりますが、ほとんどの会員様から出席の回答を戴いております。また、入会を検討されている企業様の見学参加もOKとしており数社から希望を戴いているところです。楽しい交流会となって今年度を締めくくれば、と思っております。

来週3月5日(日)は二十四節気の啓蟄(けいちつ)です。虫が冬眠から目覚め活動を始める頃という意味です。日増しに暖かくなり虫が冬眠から目覚めるとそれを補食する小動物も冬眠から目覚め動き始めます。もう、春が近い感じがします。

## インフォメーション 目次

- 01 : トピックス (3件)
- 02 : 公募情報 (3件)
- 03 : プレスリリース (3件)
- 04 : イベント案内 (4件)
- 05 : 特許出願情報 (2件)

### 01 トピックス (3件)

2/26 3/5 大村 智 特別荣誉博士がBSジャパンの「日経スペシャル 私の履歴書」に出演 <http://www.bs-j.co.jp/rirekisyo/80.html>

2月26日(日)午後6:30よりBSジャパン「日経スペシャル 私の履歴書(前編)」が放送され、大村 智 特別荣誉博士が出演されました。後編は、3月5日(日)午後6:30に放送されます。ぜひ、ご覧下さい。

#### 【番組名】

BSジャパン「日経スペシャル 私の履歴書」  
「世紀の大発見で2億人の命を救った男」

【放送日時】 3月5日(日)午後6:30~7:00

#### 【今回の放送内容(後編)】

・1975年 北里大学薬学部の教授だった大村は、のちにノーベル賞受賞に繋がる線虫を殺す物質「エバーメクチン」を発見する。だが、1977年に経営悪化で研究室の閉鎖が決定。何とか存続させるため研究費を自前で賄う独立採算を申し出る。1978年、「エバーメクチン」の特許が成立し、研究費用の問題から一時解放されるが、今度は北里研究所が作った大学や病院の費用が問題となり、いつ倒産してもおかしくないことが発覚する。そこで大村は、教授職を辞し、北里研究所の理事として副所長に就任。経営を基礎から勉強し、研究所再建のための大胆な改革を次々と実行する。1989年、「エバーメクチン」特許料収入で大型総合病院「北里大学メディカルセンター」が完成。当時、日本ではほとんど知られていなかった「ヒーリングアート」を取り入れ、地域に根付いた経営に取り組む。1990年、北里研究所の所長となり、2008年には学校法人・北里研究所への統合を成功させる。北里大学特別荣誉教授となった現在も「新物質の発見」に取り組み、その信念を次世代へ継承する活動を行っている。

#### 【2/26の放送内容(前編)】

2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞した大村は、夜間高校の教師となるものの一念発起して研究者の道へ。北里研究所からアメリカに留学後、37歳で自分の研究所を持つ。アメリカの製薬会社と手を組み、土壌の微生物から有用な物質を探し出す大村は、1975年40歳の時に線虫を殺す物質「エバーメクチン」を発見。その化学構造に手を加え、寄生虫を殺す効果を高めた「イベルメクチン」は、のちにアフリカの途上国に蔓延する寄生虫病「オンコセルカ症」の特効薬として認められ多くの人々を寄生虫から救い、この功績によりノーベル生理学・医学賞が贈られる。さらに、財政が悪化した北里研究所のために経営を学び、経営再建に尽力。1989年に、大型総合病院「北里大学メディカルセンター」を完成させる。

今なお「新物質の発見」に取り組む大村の、妻・文子との知られざる夫婦秘話や、“人の真似をしない”という信念の背景にあるもの、そして未来への想いに迫る。

【番組概要について】

日本経済新聞の名物コラム「私の履歴書」の映像化。  
前後編にわたり1人の偉人を取り上げ、本人のインタビューを軸に、  
当時の世相を盛り込みつつ、深く掘り下げて紹介する。  
ナレーションは俳優の長谷川博己。  
1人の人物の生き様をドラマのように紡ぐ。  
○番組HP：<http://www.bs-j.co.jp/rirekisyo/index.html>

3/8 「山梨大学新技術情報クラブ 2016 年度第二回交流会」開催

3/8 に山梨大学新技術情報クラブの 2016 年度第二回交流会を開催  
いたします。会員の皆様には是非ご出席し大学および会員との交流  
を深めて戴きたいと存じます。

日時：平成 29 年 3 月 8 日(水) 15:00-17:15

場所：山梨大学(甲府キャンパス)  
本部棟 5F 第 1 会議室  
生命環境学部生命工学科 応用微生物研究室 他

内容：

- (1) 山梨大学よりご挨拶 (15:00-15:15、本部棟 5F 第 1 会議室)  
早川理事、還田統括 CD
- (2) 講演 (15:15-16:00、本部管理棟 5F 第 1 会議室)  
「気流の 3 次元温度・速度計測システム」  
工学部 機械工学科 船谷俊平 准教授
- (3) 研究室見学 (16:15-17:15)  
生命環境学部 山村英樹 准教授  
・生命環境学部生命工学科 応用微生物研究室の見学  
・大村智先生ノーベル医学・生理学賞受賞記念展
- (4) 懇親会のご案内 (事前にご連絡をお願いします。)  
交流会の終了後、個人の自由参加による懇親会を開催致します。  
場所：甲府駅ビル CELEO 5F スクエア FUJI の間 ALPS の間  
時間：18:00-19:30 頃  
会費：3000 円/人、中華料理 + 飲み放題

2/27 柳田藤寿 ワイン科学研究センター教授が  
「食べるぶどうジュース」を監修・商品開発指導  
<http://www.yamanashi.ac.jp/8262>

柳田藤寿 ワイン科学研究センター教授が監修・商品開発指導した、  
ジット株式会社が製造する「食べるぶどうジュース」がこのほど発売  
されました。

この商品は、山梨特産のぶどうを皮や種も丸ごと使い、ぶどうに含まれる  
豊富な栄養素とその効果を無駄にすることなくジュースにしたもので、ジッ  
ト株式会社「山梨 Made 専用工場」で製造されました。一般的なぶどうジュ  
ースに比べて、ビタミン E をはじめオレイン酸やリノール酸が多く含まれてお  
り、美容や健康の向上に期待されています。

また、本商品のプロモーションの一環として、山梨交通株式会社が運行する  
バス「竜王・甲府駅 羽田空港線」と「甲府駅 イオンモール甲府昭和線」  
の各 1 台ずつに、柳田教授を模したイラストをラッピングし、走行させてい  
ます。なお、平成 29 年 2 月 13 日(月)には、同社の石坂正人社長が来学し、  
島田眞路学長に商品やプロモーションの説明と地域貢献への想いを述べまし  
た。

(1)国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)  
平成 29 年度「医工連携事業化推進事業 (開発・事業化事業)」に係る公募  
<http://www.amed.go.jp/koubo/020120170116.html>

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(以下 AMED)では、平成 29 年度「医工連携事業化推進事業 (開発・事業化事業)」を実施する補助事業者を、以下の分類で公募します。詳細は公募要領をご参照ください。

- 1.医療費削減効果 (当該医療機器等の利用により、医療費の削減が見込まれる事業)
- 2.海外市場の獲得 (日本発の医療機器を輸出することで、海外市場を獲得する事業)
- 3.国産医療機器市場の拡大 (従来、輸入品で占められていた分野において、国産医療機器を事業化することで、国産医療機器の市場が拡大する事業)

**【事業内容】**

本事業は、高度なものづくり技術を有する中小企業・ベンチャー等の医療機器分野への新規参入や、医療機関との連携・共同事業を促進し、医療現場のニーズに応える医療機器の開発・事業化を目標としています。

「医工連携事業化推進事業」案内ページ

<http://www.amed.go.jp/program/list/02/01/031.html>

**【対象者】**

本事業は、機関を対象として公募し、「ものづくり中小企業」、「製造販売企業」、「医療機関」を含む共同体を組成した国内の民間企業が代表機関として応募できます。

詳細については、公募要領「 1. 応募資格者」をご覧ください。

**【公募期間】** 募集開始日：平成 29 年 2 月 3 日 (金)

締切日：平成 29 年 3 月 31 日 (金) 17 時必着

**【応募方法】** 公募要領に記載のとおり応募してください。

(公募要領「 1. 公募・選考の実施方法」、「IV. 提案書類の作成と注意」を参照) 詳細については、公募要領および e-Rad ポータルサイトをご参照ください。

**【応募書類の提出先】**

〒100 - 0004 東京都千代田区大手町 1 丁目 7 番 1 号 読売新聞ビル 23 階  
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 産学連携部医療機器研究課  
「平成 29 年度 医工連携事業化推進事業 (開発・事業化事業)」担当宛

**【お問い合わせ先】**

〒100 - 0004 東京都千代田区大手町 1 丁目 7 番 1 号  
国立研究開発法人日本医療研究開発機構 産学連携部医療機器研究課  
医工連携事業化推進事業担当 E-mail : [ikou\\_nw@amed.go.jp](mailto:ikou_nw@amed.go.jp)

お問い合わせは必ず E-mail でお願いいたします。

電話および FAX でのお問い合わせは受付できません。

**【資料】** <http://www.amed.go.jp/koubo/020120170116.html> に掲載

・公募要領 ・提案書様式 ・平成 29 年度「医工連携事業化推進事業」FAQ

(2)【公募受付中】 公益財団法人 新技術開発財団  
第99回「(平成29年度第1次)の新技術開発助成」

【助成の概要】

新技術開発財団は広く科学技術に関する独創的な研究や新技術を開発し、これを実用化することによって我が国の産業・科学技術の新分野等を醸成開拓し、国民生活の向上に寄与することを目的としています。

当財団の助成は「独創的な新技術の実用化」をねらいとしており、基本的技術の確認が終了し、実用化を目的にした開発試作を対象にしています。

昭和43年の当財団設立以来原則として年2回(4月、10月)助成していません。第1回から第98回までで、総件数710件、総助成額は50億465万円になります。助成金額は、一件につき最高2,400万円まで(試作費の4/5以下)です\*。応募要件を満足する助成候補テーマは当財団に設けた新技術開発助成調査選考委員会および審査委員会で慎重かつ厳正に選考・審査され、理事会で決定します。

○新技術開発助成申請書、募集案内、募集要項

第99回(平成29年度第1次)新技術開発助成の募集要項、申請書等を公開中です(第1次募集要項公開期間:毎年2月1日~4月20日)

○申請ページ

[http://www.sgkz.or.jp/download/newtech/download.html?sscl=ZD\\_tab1\\_btn\\_newtech](http://www.sgkz.or.jp/download/newtech/download.html?sscl=ZD_tab1_btn_newtech)

○受付期間は、4月1日から4月20日(郵送物は締切日消印有効)です。

○第99回(平成29年度第1次)新技術開発助成募集要項

[http://www.sgkz.or.jp/download/data/josei\\_bosyu\\_no99.pdf](http://www.sgkz.or.jp/download/data/josei_bosyu_no99.pdf)

(3)平成29年度「ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業(旧:新エネルギーベンチャー技術革新事業)」に係る公募

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100139.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100139.html)

【事業名】[http://www.nedo.go.jp/activities/CA\\_00251.html](http://www.nedo.go.jp/activities/CA_00251.html)

ベンチャー企業等による新エネルギー技術革新支援事業

(旧:新エネルギーベンチャー技術革新事業)

【事業分類】 研究(委託、共同研究、助成)

【対象者】 企業(団体等を含む)

【公募期間】 平成29年2月6日~平成29年3月14日

【詳細】

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下「NEDO」という。)は、下記事業の実施者を一般に広く募集いたしますので、本件について受託又は助成を希望する方は、下記に基づき御応募ください。

本事業は、平成29年度の政府予算に基づき実施するため、予算案等の審議状況や政府方針の変更等により、公募の内容や採択後の実施計画、概算払の時期などを変更する場合があります。

【事業内容】詳細は「平成29年度公募要領」をご参照ください。

[http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100139.html](http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100139.html)

【事業の概要】

本事業は、再生可能エネルギー分野の重要性に着目し、中小企業等(ベンチャー企業を含む。)が保有している潜在的技術シーズを基にした技術開発を、公募により実施するものです。本事業では、申請テーマに関して、技術や事業化の面での優位性や独自性等の観点から選抜・育成し、事業化を見据えた技術開発支援を行います。本事業は、技術開発のステップによって、4つのフェーズ(フェーズA、フェーズB、フェーズC、フェーズD)を設けます。平成29年度公募では、各フェーズへの申請を募集します。また、イノベーシ

ョン・コスト構想の推進につながる新エネルギー分野の技術開発や実用化  
・実証研究については、支援を強化して取り組みます。

#### 【募集する技術分野】

公募する技術分野は、エネルギー基本計画、新成長戦略等に示される下記の分野とします。

- 1) 太陽光発電、風力発電、水力発電、地熱発電、バイオマス利用、太陽熱利用、その他未利用エネルギー分野。
- 2) 再生可能エネルギーの普及、エネルギー源の多様化に資する新規技術（燃料電池、蓄電池、エネルギーマネジメントシステム等）

また、技術課題として以下が例に挙げられます。

- ・変換効率、信頼性、耐久性、利便性向上等、性能改良に資する技術開発
  - ・低コスト化、歩留まり向上、生産性向上等、製造法の改良に資する技術開発
  - ・効率向上、安全化・安定化、長寿命化等、コスト削減に資する技術開発
  - ・再生可能エネルギーを利用する場合の信頼性、品質向上、メンテナンス性向上、リサイクル性向上等に資する技術開発
  - ・システムの最適設計、最適運用等に資する技術開発
  - ・短時間の停電時においても、地域・ビル・家屋等に非常用電源を供給可能な再生可能エネルギー利用システムに関連する技術開発
  - ・エネルギー需給ギャップの解消に資する再生可能エネルギー利用システムに関連する技術開発
  - ・独立運転可能な再生可能エネルギー利用システムに関連する技術開発
  - ・テストプラント等での大規模な実証研究開発
  - ・その他、再生可能エネルギーの普及に資する技術開発
- 3) 申請者の要件 中小企業等であること。  
詳細は、ホームページを確認ください。

#### 3. 応募方法等

HP 最下の資料欄から必要な書類をダウンロードしてください。

#### 【問い合わせ先】

イノベーション推進部 プラットフォームグループ

担当者：寺内、浅沼、佐藤

TEL：044-520-5171 FAX：044-520-5178

E-MAIL：venture29@nedo.go.jp

#### 03 プレスリリース（3件）

[1] 2/17 山梨大学 医学教育センター 森田仁 特任助教が  
「動物の複雑な体の構造を作り出す最初のきっかけとなる現象を解明」  
<http://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2017/02/20170217pr.pdf>

山梨大学は、森田仁 特任助教が動物の複雑な体の構造を作り出す最初のきっかけとなる現象を解明したと発表した。  
受精卵の表層細胞の拡張によって卵内全体の形態形成運動がスタートすることを生物学と物理学の手法を合わせたアプローチによって発見しました。

#### 【概要】

本学の 森田 仁 特任 助教（大学院総合研究部医学教育センター発生生物学研究室）は、脊椎動物のモデルとして広く研究に利用されいるゼブラフィッシュ受精卵（胚）において、将来の体の基本構造を作り出す

原腸形成運動が胚表面にある細胞層拡張という物理的な現象に端を發して引き起こされることを、生物学的な実験と物理学的なモデル化及びシミュレーションを合わせた研究手法によって明らかにしました。

【詳細】PDF ファイルを参照ください。

<http://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2017/02/20170217pr.pdf>

## [2] 3/10 ワイン・フロンティアリーダー養成プログラムシンポジウム開催

<http://www.yamanashi.ac.jp/8145>

平成 26 年度文部科学省の「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」事業として採択された「山梨大学ワイン・フロンティアリーダー養成プログラム」は、このたび事業最終年を迎えることができました。本事業の成果としまして「ワイン・フロンティア養成プログラム」シンポジウムを下記のとおり開催いたします。多数のご参加をお待ちしています。  
<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2017/02/20170223pr1.pdf>

日時：平成 29 年 3 月 11 日（土）14:30～18:30（受付 14:00～14:30）

場所：ジット甲府プラザ（山梨県甲府市高畑 2-19-2）TEL：055-221-8100

甲府駅より会場まで、送迎バスの運行があります。

プログラム：

1. 挨拶（14:30～15:10）

2. 講演会（15:20～16:40）

(1) 「ブドウ農家とワイン産業」ドメーヌ茅ヶ岳代表 安部正彦氏

(2) 「マスカットベリーA に魅せられて」

ドメーヌヒデ代表取締役 渋谷英雄氏

(3) 「酒販店から見る山梨県産ワインの魅力と展望」

長谷部酒店 長谷部 賢氏

3. 情報交換会（17:00～18:30）

定員：100 名（先着順）

参加費： 無料（情報交換会参加者は 5,000 円）

申込方法：E-mail または FAX にて、氏名・年齢・住所・E-mail アドレス・電話番号（FAX 番号）情報交換会参加の有無を記載し、  
3 月 9 日（木）17 時必着で以下の連絡先へお申し込みください。

お申込み・お問い合わせ：

山梨大学ワイン科学研究センター（〒400-0005 山梨県甲府市北新 1-13-1）

TEL：055-220-8604、FAX：055-220-8768

E-mail：wine-edu@yamanashi.ac.jp

## [3] 3/17 平成 28 年度 山梨大学 COC 事業成果報告会のご案内

<http://www.coc.yamanashi.ac.jp/1425>

山梨大学の COC 事業では、山梨県の基幹産業の一つである農業分野の衰退に歯止めをかけ、自然と一体となった新たな里づくりを行うという課題の解決に、全学的に取り組んでいます。

本報告会では、地域から頂いた課題を研究テーマとして取り組む

「地方創生支援教育研究プロジェクト」の採択者がその成果を広く発表いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

<https://www.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2017/02/20170223pr2.pdf>

日時：平成 29 年 3 月 17 日（金）13:30 開始（開場・受付 13:00～）

場所：山梨大学甲府キャンパス 工業会館 3 階アクティブラーニング室  
（山梨県甲府市武田 4-3-11）

プログラム：

COC 事業報告

主催者挨拶（13:30~13:35）

平成 28 年度事業報告（13:35~13:55）

郷 健太郎（山梨大学地域未来創造センターCOC 部門長）

演題「山梨大学 COC 事業の取組み - 教育・研究・社会貢献から - 」

COC 事業成果報告

平成 28 年度地方創生支援教育研究プロジェクト

ポスター発表（14:00~15:30）

閉会（15:30）

お申込み：参加申込書に必要事項をご記入後、3 月 10 日（金）までに、  
下記宛先に FAX 又は E-mail にてお申込みください。  
当日参加も可能ですが、事前のお申込をお願いします

案内チラシ、申し込み用紙：ホームページ参照ください。

<http://www.coc.yamanashi.ac.jp/1425>

お申込み・お問い合わせ先：

山梨大学地域未来創造センター COC 部門

〒400-8510 山梨県甲府市武田 4-4-37

TEL：055-220-8130 FAX：055-220-8702

E-mail：coc-event@yamanashi.ac.jp

#### 04 イベント情報 （5 件）

[1] 3/2 経済産業省関東経済産業局 / 山梨県

「地方ベンチャー支援キャラバン in 山梨」

～ 地方発ベンチャー企業の創出・成長支援～

[http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sogyo/20170222venture\\_caravan\\_yamanashi.html](http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sogyo/20170222venture_caravan_yamanashi.html)

地方創生を推進していくための新たな活力として地方発ベンチャーへの期待が高まる中、地方の経済活性化や雇用創出を更に進めるためには地方発ベンチャー企業に対するスピード感のある成長支援が必要不可欠です。そこで本企画では、山梨県内で精力的にベンチャー支援に携わる地域支援機関や金融機関に加え、支援ノウハウを有し地方発ベンチャーの育成に意欲的な東京圏の支援人材を呼び込み、地方ベンチャー企業の創出・成長支援のあり方や地域が抱える課題を検討します。

地域支援機関と東京圏の支援人材同士の広域的なネットワーク形成を図ることにより、地域におけるベンチャー企業の創出・成長を支援します。

チラシ

[http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sogyo/data/20170222caravan\\_yamanashi\\_chirashi\\_rev.pdf](http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sogyo/data/20170222caravan_yamanashi_chirashi_rev.pdf)



【開催概要】

- 日時 平成 29 年 3 月 2 日（木曜日）14:30～18:00
- 会場 やまなしプラザ 1 階オープンスクエア（防災新館 1F）  
山梨県甲府市丸の内 1 丁目 6-1

○参加者 ベンチャー企業、支援機関、金融機関、自治体 等

○主催 経済産業省関東経済産業局 / 山梨県

○定員 30 名

○参加費 無料（交流会参加者 1,000 円 / 人）

○プログラム

第 1 部

(1) 主催者挨拶

(2) 東京圏支援人材による支援事例の発表

(株) TNP パートナース 代表取締役社長 呉 雅俊 氏

ウエルインベストメント(株) 代表取締役社長 瀧口 匡 氏

(株) ゼロワンブースター 共同代表 合田 ジョージ 氏

(3) 地方ベンチャー企業の事業内容発表、質疑応答

(4) 県内起業支援事業のご紹介

(5) 東京圏支援人材と地方支援機関・ベンチャー企業の情報交換会

第 2 部 交流会

○申込方法

氏名・会社名・役職・交流会出欠を明記の上 [kanto-shinki@meti.go.jp](mailto:kanto-shinki@meti.go.jp)

（関東経済産業局 新規事業課あて） メールにてお申込み下さい。

○問い合わせ先

経済産業省関東経済産業局 地域経済部 新規事業課 久世、窪田

電話：048-600-0276 FAX:048-601-1289

[2] 3/8 「水防災シンポジウム」

<https://www.sannichi-ybs.co.jp/SP/events/mizubousai>

平成 27 年の鬼怒川水害など、近年全国各地で大水害が発生し、多くの  
方々が被災しました。

幸いなことに富士川流域においては、昭和 34 年・昭和 57 年の水害以降  
には、これほどのものは起きていません。しかしながら、地球温暖化に  
伴う気象変動により、今まで経験したことのない豪雨による水害のリスク  
が高まっています。

本シンポジウムで、富士川の水害について学び、防災意識を高め、いざと  
いう時に備えましょう。

○チラシ [http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr\\_content/content/000666492.pdf](http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000666492.pdf)

○日時 2017 年 3 月 8 日（水）

開場 / 13 時 30 分 開演 / 14 時 00 分 終了 / 16 時 45 分（予定）

○会場 山梨県立文学館 講堂（山梨県甲府市貢川 1 丁目 5-35）

○内容 第一部 / 基調講演 「温暖化、気象変動に関して」

天達武史 氏（気象予報士）

第二部 / パネルディスカッション

「地域が一体となった水防災、水防災意識社会の再構築」

コーディネーター

鈴木猛康 氏

(山梨大学大学院総合研究部工学域土木環境工学科 教授、(学系長)  
地域防災・マネジメント研究センター センター長)

パネリスト

天達武史 氏 (気象予報士)

保坂 武 氏 (甲斐市長)

秦 康範 氏 (山梨大学大学院総合研究部工学域土木環境工学科 准教授)

野中 均 氏 (山梨市役所 理事)

保坂 悟 氏 (山日 YBS グループ)

尾松 智 氏 (甲府河川国道事務所長)

○定員 200 名 (参加費無料・事前申し込み)

○申込方法

郵便番号 住所 氏名 (お申込みの代表者) 参加希望人数

電話番号 企業・団体名 (企業・団体でお申込みの方。個人の場合は不要)

を明記し、FAX、はがき、E-mail、ホームページいずれかの方法でお申し込みください。

FAX 055-231-3150

はがき 〒400-8515

甲府市北口 2-6-10 山梨日日新聞社広告局「水防災シ

ンポジウム」

E-mail oubo2@sannichi.co.jp

イベント HP <https://www.sannichi-ybs.co.jp/SP/inquiry/5929>

○主催 国土交通省甲府河川国道事務所

○共催 山梨日日新聞社、山梨放送

○後援 地域防災・マネジメント研究センター、

日本気象協会、甲府地方气象台

[3] 3/9 山梨県 富士工業技術センター 研究会

『機能性繊維の概要と評価方法』のご案内

山梨県富士工業技術センターでは、繊維製品等の品質改善、取扱い方等の適正化を図ることを目的に、繊維製品等の品質問題を中心とした研究会を以下のとおり開催いたします。

( 繊維産業に関わる方であればどなたでもご参加いただけます )

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：平成 29 年 3 月 9 日 (木) 14:00 ~ 16:00

会 場：富士工業技術センター 2 階講堂

対 象：県内繊維産業従事者

参加料：無料

内 容：

講師 田島 一憲 氏

(一財)カケンテストセンター 東海事業所 名古屋ラボ

近年、繊維製品では、デザインやブランド力、価格に加え、消費者の購買意識を更に刺激するための抗菌防臭や速乾性、吸湿発熱など、快適性・安全性といった+ の機能が求められています。今回、これら機能性繊維の概要と機能性を評価する試験方法について解説します。

詳細・お申込書に関しましては、下記リンク先をご参照ください。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kougyo-fj/documents/kinousei0309.pdf>

【お問い合わせ先】

山梨県富士工業技術センター

繊維部

担当：宮川・上垣

TEL:0555-22-2100 FAX:0555-23-6671

[4] 3/16 山梨商工会連合会

「省エネによる経営改善と補助金活用セミナー」の開催について

<http://www.shokokai.or.jp/19/1900210000/index.htm#sin34018>

省エネルギーへの取り組みは、社会的環境負荷の削減を実現するとともに企業の経営力強化にもたいへん有効な取り組みです。今般、省エネの進め方や補助金活用について理解を深める機会として、セミナーを開催することといたしました。新年度に向けてぜひご参加ください。

○チラシ <http://www.shokokai.or.jp/19/1900210000/index.htm#sin34018>

○開催日 平成29年3月16日(木) 13:30~

○場所 中小企業人材開発センター 視聴覚室

〒400-0055 甲府市大津町2130-2 TEL 055-243-4916

○内容 省エネで経営改善！ 現場発の省エネルギー対策  
省エネ政策の動向と中小企業への支援について  
省エネルギー補助金活用のポイント  
質疑応答

○定員 30名(参加費無料)

○申込 チラシ裏面申込書に記入してメールまたはFAXにて申し込み

電子メール [shien@shokokai-yamanashi.or.jp](mailto:shien@shokokai-yamanashi.or.jp)

FAX 055-235-6756

○問合せ先 山梨県商工会連合会 経営支援課 石川 充

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

山梨県中小企業会館3F

TEL 055-235-2115 FAX 055-235-6756

[5] 3/28 平成28年度 第7回「アジアフォーラム21」研究会のご案内

<https://www.yafo.or.jp/2017/02/23/6407/>

公益財団法人 山梨総合研究所では、3/28に以下の通り研究会を開催いたします。

ご案内・出席連絡フォーム：

[https://www.yafo.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/02/asia28-7\\_info.pdf](https://www.yafo.or.jp/wp/wp-content/uploads/2017/02/asia28-7_info.pdf)

話題提供：「東南アジア諸国にとってASEANが持つ意味と今後の展望(仮)」

講師：拓殖大学 国際学部教授 岩崎 育夫 氏

日 時：平成29年3月28日（火）午後4時00分～6時00分

場 所：山梨県立大学 A館6階 サテライト教室

（甲府市飯田5丁目11-1 Tel.055-224-5261 / 代）

定 員：50名（先着順）

対象者：どなたでもご参加いただけます（参加無料）

お申し込み締め切り：平成29年3月17日（金）

応募先：申込はFAXかメールで

FAXの場合：055-221-1050

E-MAILの場合：asia-f@yafo.or.jp

主催：公益財団法人 山梨総合研究所

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内1-8-11 竹原ビル5F（地図）

TEL：055-221-1020

05: 特許出願情報（2件）

～山梨大学が出願した最新特許情報をご紹介します～

注）特許出願情報については、クラブ会員のみへの提供となっております。本掲載では非公開とさせていただきます。

- 1）このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
- 2）メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。